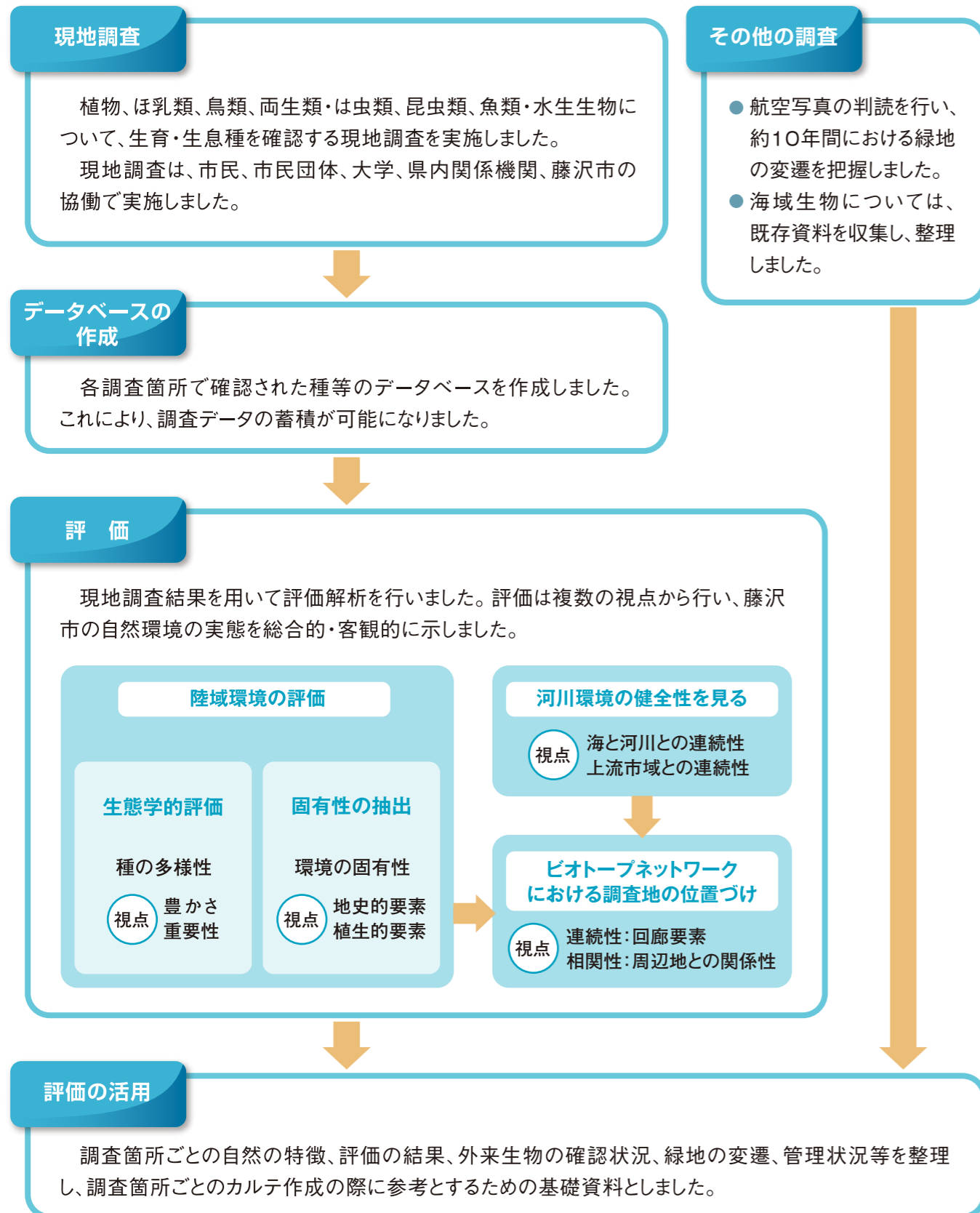


②・④ 現地調査の実施から評価、活用までの流れ



3 藤沢市の自然環境

③・① 自然環境の概況

藤沢市は、相模湾に面し、温暖かつ穏やかな気候に恵まれています。藤沢市北部は、標高40~50mの相模野(相模原)台地と高座丘陵、及び引地川、境川、相模川支流河川がつくりだした低地とで構成されています。藤沢市南部は江の島、海岸部の湘南砂丘地、引地川・境川・柏尾川などがつくりだした沖積低地と、新林公園・川名緑地(川名清水谷戸)などの多摩三浦丘陵から連なる片瀬丘陵・村岡丘陵、相模野(相模原)台地の一部から構成されています。



▲クゲヌマラン

藤沢市の大地の成り立ちには、地球規模の気候変動(寒暖変化)に伴う「海進」と「海退」^{※1}の繰り返しによる海岸線の移動と、富士・箱根火山の活動による火山性噴出物の堆積等による台地・丘陵の形成という、地史的な影響が反映されており、植物の分布にもその影響がうかがえます。

代表的な緑地として、地史・地形の異なる三大谷戸(遠藤笹窪谷、石川丸山谷戸、川名清水谷戸)、相模野(相模原)台地、高座丘陵、片瀬丘陵などの斜面地周辺の樹林、海岸部のクロマツ林、辻堂海岸の砂丘草原、江の島の樹林地などが挙げられます。

河川は、緑地と緑地、海と緑地をつなぐコリドー(回廊)^{※2}として重要な役割を持っています。藤沢市には境川とその支流、引地川とその支流、相模川支流の目久尻川、小出川などが流れています。また、藤沢市が面している相模湾は、日本国内の湾の中で1,000m以上の水深を持つ3つの湾のうちの1つで(他の2つは、駿河湾、富山湾)、浅瀬から深海底までの地形も複雑です。

藤沢市の自然環境は、里地・里山^{※3}・河川・海が連続性を保ちながらビオトープネットワーク(生きものの生息場所のつながり)を形成しています。

※1 「海進」と「海退」 地球は数万年単位での気候変動により氷河期と温暖期を繰り返しています。温暖期に地上や極地の氷が融けて海面が上昇し陸地面積が減少する状態を「海進」、寒冷期に陸地や極地に多量の氷が形成され海面が低下し陸地面積が増加する状態を「海退」といいます。最近の代表的な「海進」は、約6千年前の「縄文海進」と、約12万5千年前の「下末吉海進」です。

※2 コリドー(回廊) 複数の生きものの生息場所をつなぐ帯状の地帯。緑地帯や河川は代表的なコリドー(回廊)であり、生きものの移動空間として重要な役割を担っています。

※3 里地・里山 原生自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林と植林地、それらと混在する水田や畑などの農地、ため池、草原などで構成される地域をいいます。農林業に伴う継続的な人間の働きかけにより環境が形成・維持されてきました。

